

学会記事

第2回研究報告全国大会

第2回研究報告大会は1981年11月7～8両日、学習院大学記念会館で開かれた。出席者は100名弱。こじんまりとしたなごやかな大会で、特に移民労働者問題を共通テーマとして興味ある討議が展開された。また、ブラッセルからこの大会のため特に来日されたエドムンド・ウェレンスタイン氏(EC委員会特別顧問)の「ECの対外関係のわく組みと日・EC関係」のテーマで特別講演があった。氏はECSC時代から特に日本とECとの間の関係の調整につくされ、日本に数度来ておられる知日派で20～30年間の日欧関係を自己の外交関係を通じて詳しく分析した報告をされた。本大会の報告及びシンポジウムは以下の通り。

《プログラム》

第1日(11月7日)

午前の部

〈自由論題〉

司会者 大隅 宏(成城大学)

(1) フランス政変のECへの影響とユーロソシアリズム

前田征則(東北福祉大学)

(2) EC加盟国の政治協力

田中俊郎(慶應義塾大学)

午後の部

司会者 金子 晃(慶應義塾大学)

(3) ECのダンピング規制

——1979年EEC反ダンピング規則を中心として——

斉藤 武(立命館大学)

(4) 欧州国際民事訴訟法条約の解釈問題

西 賢(神戸大学)

〈特別講演〉

Japan-EC Relations and the Framework
of the EC External Policy

E. ウェレンスタイン(EC委員会
特別顧問)

第2日(11月8日)

午前の部

〈自由論題つづき〉

(5) 自動車工業都市の日独比較

司会者 清水貞俊(立命館大学)

真継 隆(名古屋大学)

〈共通論題〉(ECにおける労働移動)

座長 細谷千博(一橋大学)

島野卓爾(学習院大学)

岡村 堯(西南学院大学)

小城 剛(埼玉大学)

(1) 労働者の自由移動に関するECの立法

午後の部

(2) 移住労働者の政治的・社会的問題

沢田マルガレーテ(筑波大学)

——西独の場合——

(3) 欧州労働問題の経済的考察

大庭治夫(国士館大学)

——西独を中心として——

(4) ECにおける途上国出身移民労働者と経済発展とのリンク問題

——フランスのマグレブ労働者を中心として——

勝俣 誠(貿易研修センター)

(5) 全体討論

(なお、所属は学会報告当日のもの)

海外の学会および大学との交流

日本EC学会では、海外のEC関連学会および大学との間で相互の交流を深めるために、研究大会等の情報および機関誌の交換を開始しました。下記のリストは、『日本EC学会年報』をお送りし、交流の回答をいただいた諸機関です。会員皆様のご留学、ご出張の際にお役立て下さい。先方から研究大会の案内や機関誌が送られてきておりますので、必要な方は事務局までご連絡下さい。